令和4年度第1回子育てするなら山形県推進協議会　概要

１．日　　時：令和４年８月５日（金）13時30分から15時30分まで

２．場　　所：オンライン会議

３．会議次第

１	開　　会
２	しあわせ子育て応援部長挨拶
３	会　長　挨　拶
４	協　　議
	「やまがた子育て応援プラン」令和３年度事業評価について
５	閉　　会

４．会議録

■開会

■しあわせ子育て応援部長挨拶、会長挨拶

■協議

「やまがた子育て応援プラン」令和３年度事業評価について

・資料１～２により事務局から説明。その後各委員から意見を伺った。各委員等の発言は以下のとおり。

【斎藤和喜委員】

プランの各数値目標に関して、一朝一夕ではできないような取組みも多い中で、目標に近づいている項目が非常に多く取組みの充実がうかがえた。今回、プランの取組み内容について、身近な子育て世代の何名かの方に聞いてみたところ、プランの内容や取組みについて知らないという方が結構いた。こういった良い取組みをしていることについての広報活動はどのように行っているのか教えていただきたい。

→【事務局】施策があまり認知されていないというご意見は、皆様からいただいているところ。このような様々な取組みについては、県の「山形子育て応援サイト」やフリーペーパー、SNSなどでも紹介している。特に今年度は周知・広報に注力していきたいと考えており、県の広報担当課とも連携し、専門家の方からご助言をいただくなどしている。より広く発信できるよう一層力を入れていきたい。

【斎藤和喜委員】

ある子育て世代の方からは、認知度向上に向けて、保育所や幼稚園、小中高校にフリーペーパーを配っていただくと保護者にも伝わるのではないかというアイディアが出された。ぜひ参考にしていただき、せっかくの良い取組みがより広く認知されるようにお願いしたい。

【秋野涼子委員】

今回の資料を見て、様々な施策をしていること、保育園に配られるリーフレット等はこのような事業で配られていたのだなということを改めて知った。ＳＮＳやフリーペーパーなど

を使って、県の保育協議会を通して、保護者の皆さんに伝えたいと感じた。また、現場での活用方法や不足しているところ等をこの協議会で意見を出していけたらと思っている。

保育園として、今、課題に挙げられているのが、保育士不足とともに、少子化に伴って保育園を持続していけるのかということ。今すぐではないが、考えていかなければならないという話をよくしている。

また、卒園した保護者の方が保育園に来て（入学後の悩みを）相談されるというケースも少なくないが、小学校に伝えると、学校に直接言うように伝えてくださいと回答される。解決したり結論を出してほしいというのではなく、相談に乗ってくれる窓口を求めている親御さんがいる。子どもの居場所とは、まず親の居場所があって、親が安心できるから子どもの居場所になるものというふうに考えていかなければならない。

また、地域のコーディネーター数等、数値が上昇しており、熱心に取り組まれていることが資料からわかった。今後も継続していただき、大きな自治体ではなくて小さなコミュニティのようなものが増えていくことを願っている。

【阿部誠委員】

令和３年度の事業評価に対しては、42の指標のうち、目標に近づいたものが30ということで、県の施策について評価できるものと感じている。このような現状の中で、これからの事業を推進する上では、最終的な目標、例えば、合計特殊出生率を1.7にするための、実際の各施策をどのように展開すべきかということについて、町村という立場から、三川町の今までの経過について紹介し、これからの子育て支援についての意見を述べたい。

三川町では、20年前に「子育てするなら三川町」として合計特殊出生率を県内一にすることを目標に、各種施策を展開してきた。平成20年代においては、本町の合計特殊出生率は1.26と、全国、県の数字から見るとかなり下回っていたが、平成22年度以降子育て支援が推進されたことで、出生率が高まり、平成30年においては、合計特殊出生率が２を超えるという状況で推移をしてきた。しかし、令和２年、３年は、新型コロナ感染拡大によって出生数が減少しているところ。やはり、これからは、少子化対策における子育て支援のより充実した施策が必要である。このようなことから、これからも、令和４年度の各施策展開において、県の方からも、各事業の推進をお願いしたい。

【岡部幸子委員】

私が携わっている子ども食堂「楽」は、今年７年目になる。今回、この事業評価等を通して、県の事業の詳細について初めて知ったものが多い。「子育てするなら山形県」や「オンライン100人女子会」など、新聞紙面等で言葉は知ってはいたが、「山形子育て応援プラン」という計画の中で事業を実施しているという認識がなかったので、こういった流れの中でやっているということを勉強させていただいた。周知はなかなか難しいが、情報が伝わっていくとなお良いと感じた。

私たちが、地域の子どもたちに関わりながら、最初は子ども食堂という名称で、今は地域食堂（高齢者も入っているので）として、居場所づくりを行っている。家庭でもない、第３の居場所として子どもたちが過ごせる場所を作りたいという思いで始めた。しかし、コロナ禍でなかなか思うような活動ができていない。ただ、このコロナ禍によって、ひとり親の家庭の皆さんとより多く繋がることができたため、実態が見えてきたり、必要性がより明確になってきた部分もある。今は、弁当配付さえもできない状況ではあるが、何とか食材だけは配布していきたいと、月２回、継続している。

事業の評価をしながら私自身も何ができるのだろうと考えたときに、「子どもは宝」と思

っている方々が、それぞれの立場で、高齢の方も、若い人たちも、その地域の子育てに何らかの形で関わっていけるような仕組み、仕掛けがあればいいなと感じた。私たち地域食堂においても、高齢者の方や大学生、高校生もボランティアとして参加しているので、今後も地域が子育て支援に関わっていく一助になればと思う。

【小松功委員】

現在息子と娘が子育て世代で、娘が今、育児休業中である。今回の資料　を見ると、自分の息子と娘が就職する段階でこのような事業や情報があったら非常に助かっていたのになあと感じた。青少年育成の活動を行っていても同様に感じるが、子どもたちは、高校生の段階でここに住む住まないということを決めているようだ。先ほどからご意見があるが、広報の方法をぜひ検討していただき、良い方向に向かっていけば良いと思っている。

【昆邦子委員】

長井市役所で結婚定住推進員として活動している。私自身は、進学、就職、結婚子育てを、首都圏で体験し14年間過ごしてからＵターンし、長井市の前にコミュニティセンターで14年勤めてきた。また、３人の子どもを育てているところであり、さらに、一昨日の大雨で被災地となった川西町に住んでいるため、被災者として避難所で過ごすという経験もした。こういった、いろんな経験の中からお話させていただく。

婚活支援をしている中で、サポートを必要としている方は、少し自信がない方が多いように感じることが多い。愛情をもって育てられると何かにチャレンジしようという勇気も生まれるし、自分も温かい家庭を作ろうという気持ちになると思うので、こういった子育て支援を継続していくことは大事だと感じている。

山形県は、女性の正規社員の割合が高く３世代同居率が高い。今は、女性の進学率も高く自己実現をしたいと望む方が多いので、サクセスとハピネス両方の夢が叶えられる山形県であるということは自慢できると思う。子育て環境も充実しているので移住希望の人などに向けても、このような点を広く広報していただければ、人口減少・少子化対策にもつながるものと考える。

【佐藤洋樹委員】

令和３年度の事業評価については、この評価表を見ると、今年度は計画期間の中間年度となるようである。順調に目標に向かって実績が出ている項目についてはこのままでよいが、実績が伸びない、あるいは策定時よりも実績が下がっている項目について、今後どういうふうに実際の事業展開を見直し進めていくか。各行政、自治体などでも、事業計画の評価をしていく中で、途中で見直しが必要になる場合があるが、これからの目標について、このまま努力していく方向なのか、または見直していくのか、考えをお聞かせいただきたい。

→【事務局】今回実績値を分析している中で、コロナの影響が要因となっている部分もあるので、今後見直しを検討していくところもあるかと思うが、数値が下がった項目を見ると、合計特殊出生率など、人口減少によるものが多い。これまでも多種多様な施策を展開しているが、なかなか難しいところである。このような対策の一環として結婚支援としてAIマッチングシステムなどの取組みなども行っていく予定である。

【高見佳澄委員】

この会場に来て、女性委員の割合が高いことに驚いた。女性の意見、女性の思いを聞いてくださる気持ちがあるからこそこのような割合になるのかと思うが、子育てこそ男女平等にすべきと思うので、ぜひご配慮いただけたらと思う。

何年か委員しているにも関わらず、実はこの資料を拝見して初めて知る事業などもあり、また、知らず知らずにその施策のお世話になっているという事業もあった。コロナ禍で様々な困難があったにもかかわらず、ありとあらゆる立場に立って考えられたであろう様々な施策や事業が実施され本当にすばらしいと感じている。

今後必要となる視点としては、ぜひこの施策や事業が、必要とされるべき人に行き届いていくようにしてほしい。都市部、市町村の中心部には行き届くが、地方の方に行けば行くほど、支援からこぼれ落ちてしまう人がいるようなイメージがある。ぜひ必要としている人に平等に行き届くよう、様々な方法を考えていただきたい。あまり関心のない方でも、このような様々な施策や事業があるということを知っていただくことで、必要としている人に繋がる一歩になるかもしれないので、広く県内の人々に知ってもらえるような周知方法をお願いしたい。先ほどフェイスブックやホームページ、フリーペーパーを挙げていただいたが、こういったものは、見たい人しか見ないので、それ以外の方も含めて、皆さんに見ていただけるような周知方法を考えていただけたら良いのではないかと思った。

【中嶋愛委員】

mama*jamという山形県内のママが760人ぐらい参加しているコミュニティの副代表で広報を担当している。私自身、年中年少の男の子と１歳3ヶ月の女の子を育てており、子育て真っ只中である。今まさに子育てをしている私たちが感じていることをお伝えしていきたい。

資料を拝見した時に、小さい子向けの施策だけではなく、高校を卒業する時のことや大学生卒業後のＵターンのところまで、長い目で見た施策が考えられていることを実感した。それもとても大切なことではあるが、ただ「子育てするなら山形県」は子育て応援なので、不妊治療や結婚の助成も大切だが、今子育てをしている人たちをもっと応援してもらえると嬉しいと、すごく感じている。

例えば、私が第３子を出産した時に、コロナのため母親学級が中止になったり、クリニックに上の子どもたちを同伴できなくて対応に苦慮した。２人の兄たちは、保育園に毎回４千円お金を払って預けることになり、経済的な負担もすごく大きかった。

一方、出産支援金として県から出産費用を負担していただいて、その恩恵に預かった。一時的なものであったとしても、県が自分の妊娠や出産を喜んで、歓迎してくれて、実際に目に見える形でサポートをしてくれた、とてもありがたい制度だった。

今、コロナ禍で、これから初めて妊娠出産していくママたちの多くは、不安な気持ちや孤独な気持ちを抱えていると思われる。いろんなイベントが一律に中止、縮小されているが、なるべく開催できる方法を模索して、そういった人たちが孤立しないようにサポートしていくことが必要だと思う。

また、自殺率が高まっていることも気になる点である。10代、20代、30代、死因の一番が事故等ではなく自殺となっている。せっかく生まれてきた命を自分で絶たないようにするためにも、環境をどのように整えていったらいいのか、みんなで考えて応援していく必要があるようにと感じている。

【中村妙子委員】

山形市内で薬局の代表を務めている。子育て応援プランに関しては、様々な角度から子育

て支援をきめ細かく作成していただいて、実行して成果も少しずつ見られるようになっており、大変すばらしいと思う。県の方から、温かい支援があって大変嬉しく思っている。

弊社の場合は、８割が女性職員であるが、一番大変なのは、人材の確保の部分。男性も女性も、ほとんどの職員が産休育休を取得している。復帰後は、勤務時間を短縮して、フルタイムを躊躇する者が多い。子どもの成長に合わせて、それぞれのワークライフバランスを、仕事の割合を考えている人が多く、この期間のマンパワーの確保に大変苦労しているので、パートや有期就労を希望する女性の人材バンクのようなものがあればありがたい。転勤族の家庭では、妻が就職したいのに就職できなかったり、就職したいけれどもしない方が多くいるという話も聞くので、うまく条件をマッチングすることができれば、雇用に繋がって、大変ありがたいと思う。新型コロナ感染症もまだまだ収束が見えずに、不安を抱きながら子育てをしている方も多くいらっしゃるので、子どもたちを守って、雇用も守っていく、さらに柔軟な施策を引き続きよろしくお願いしたい。

【新関あや委員】

YOGA ME!という会社を経営しており、コロナ前は、月の半分は東京で、残り半分は山形で暮らすというライフスタイルだった。子育ても、東京と山形、半分半分のスタイルで計画を立てていたが、コロナ禍で東京での子育ては難しいと感じ、今はどっぷりと山形にお世話になっている。山形は本当に子育てしやすい。まず無料の遊技施設があるということ。最近、素敵な建築設計の施設もできた。さらに自然豊かな公園があり、東京に比べてすごく綺麗で安全な公園がたくさんあるので、通園している子ども園以外にも気軽に遊びに行けるところがたくさんあってすごく良いと思う。休みごとに、蔵王にある乗馬クラブに行ったり、カヌーに行ったり、山に登ったり、デイキャンプをしたり、東京では考えられない遊び方がリーズナブルで出来て、本当に山形で充実した子育てをさせていただいている。

子育て応援プランの資料を拝見し、子育てに関するいろいろ支援や助成、家族へのバックアップをしてくださっていたことを、知ることができた。改めて感謝したい。

今、子どもが３歳と１歳だが、教育指針や理想を考えたときに、英語教育やベビーシッター、家事代行のサービスがあればさらに良いと思う。山形の方にベビーシッターや家事代行サービスを使うというと、人様が自分の家に入ってきて家事をすることに抵抗があるようで驚かれることが多いが、子育て中にこういったサービスを使うことができると、ママがリラックスして子どもと穏やかに過ごすことができたりするので、企業とも連携して、そういったサービスも充実してもらえたら嬉しい。

また、他県ではサマースクール・英語のサマースクールを自然豊かな場所で開いていたりするので、山形にもすごく良い自然環境があるので、そういった取組みが増えたら良いように感じる。

資料中の「ライフデザインセミナー」について、結婚・妊娠・出産というのが世の中のすべての人の幸せの基準ではないので、違和感を覚える人もいるかもしれないと感じた。セミナーで実際にどのような内容を説明しているのか教えていただきたい。例えば、最近であれば、ＬＧＢＴＱの方々もいる。ゆくゆくは、同性愛者の人が養子を迎えて育てるケースも増えていくと思うが、まさに今の子どもたちの世代がそういった多様な家族形成をする可能性があると思う。

私自身、第一子を出産したときにパートナーと話し合って夫婦別姓を選択していたが、里帰り出産をした山形の病院で、その状況をなかなか理解してもらえなかった。少し新しい形となると、受け入れがたい、理解しがたい方も結構多いような印象がある。適齢期になると「結婚」と言われ、結婚すると「子どもは？」と言われるのも、若者としてはちょっと過ごしにくさのようなものを感じるところがあるので、理解を進めて、もっと新しい形というも

のもいろんな世代の人に知っていただけたらいいかなというふうに感じている。

→【事務局】ライフデザインセミナーについては、ライフコースが多様化するなかで、養子縁組、里親家庭、事実婚家庭、パートナーシップ条例などの用語も掲載しているところ。また、男女がお互い協力し合いながら家庭を築いていくという意味で、高校生のワークショップを見ると、相手にしてあげたいこと、してもらいたいことなどを話し合いながら、お互い相手を思いやる心を育み、家庭を築いていこうという考えを導くようになっている。妊娠適齢期などの説明も多く入っており、これからの時代を鑑みて、少し内容を加味するなどの必要があるかもしれないと感じる。

【新関燿委員】

いろんな課題があるなか、こういった施策を様々打っていただいて、いろんな課題にアプローチしている山形県はすごいなと感じた。これからも頑張っていただきたい。事業全体として良い点は皆様がおっしゃっていたところについて、同じようなことを感じた。

私からは特に、若者の立場として、「雇用」、「若者の移住」「出会いと結婚」の３点についてお話ししたい。

雇用については、商工会議所や県で、座学で教えるスタイルの講義が沢山実施されているが、それよりもインターンシップのようなものを増やして欲しい。また、働く場所が都会に比べてダサいというのが若者の感想である。石川県などではすごく綺麗な職場があるので、そういった工夫を山形県でも行っていただき、デザインを向上させたり、メールではなくチャットを使うなど、アップデートしていただきたいと感じている。

また、移住については、Ｕターンが多く、地元には親がいるから子育てしやすいという理由で帰ってきているだけではないかと感じる。若者を呼ぶだけの魅力は、まだ正直少ないと感じている。大人がどのように頑張って生きているか、夢を持っているか、自信を持っているかなどを向上していくことで、自然と若者はついてくるのではないかと感じた。価値観はそれぞれ違うので、押し付けるのではなくて、若者を理解していく必要がある。

出会いについて、若者は今、自信がもてない上、コロナ禍で合コン等もできないため、マッチングがすごくしづらい状況である。出会い系アプリは慣れた人が使う傾向にあるため、慣れていない人が出会えるサービスとして、七日町の出会いサポートセンター（ハッピーサポートセンター）が利用者数も増えているという記事を見たので、すごく良いと思った。

【村山恵子委員】

東根市のさくらんぼタントクルセンターとあそびあランドで、子育て支援の活動をしている。県の施策を拝見させていただいた際に、非常に多岐に渡った様々な施策をされているところ、成果も上がっているというところが素晴らしいと思った。

その一方で、来年４月からはこども家庭庁が設置されることもあるので、もう少し子どもの視点に立った施策を盛り込んでいただくと良いようにと感じた。子育て支援というとどうしても乳幼児の支援が中心というイメージが大きいが、子どもが成長し、小学校に入学してからは、学校以外の相談場所がないという話をよく聞く。また、困難を抱えている子どももどんどん増えているように感じており、そういった子どもたちの支援や、子どもにとっての利益を第一に優先して考えた、子ども視点、子育て当事者の視点に立った施策を、もう少し盛り込めたら良いと思った。

先ほどから山形の良さの話が出ているが、人柄が温かいところも山形の良さだと思うので、頑張っているお母さんたちを囲んでみんなで子育てしていけるように、子ども・子育てを取り巻く方々が理解してくださるような施策なども盛り込んでいただきたい。子育てへの

協力がいずれこの地域を支える人材の育成につながるという考え方に立てるようになると、地域の方も、子育てに対してもっと関心を持って関わってくださるのではないかと思う。

また、今、子ども食堂や子どもの居場所づくりに取り組む団体の方が増えているが、この施策の位置付けが子どもの貧困対策となっていると、いまだにかわいそうな子どもたちが行くところというイメージが払拭できないので、施策を展開する時に、考えていただきたい。

【矢口麻美子委員】

山形県学童保育連絡協議会で事務局次長をしている。普段は、山形市内の学童保育で放課後児童支援員として働いているが、学童保育でも人材不足が深刻な問題となっている。

私は東京から30数年前に山形へ嫁いできた。33歳と30歳の息子と娘がいるが、どちらも東京の方の大学に進学し、そのまま東京の方で就職して関東で家庭を持っている。親としては、２人とも帰ってきてくれなかったという気持ちだが、この頃、子どもたちが自身の子育てをしている中で、「山形で育ってきた僕たちは幸せだった」と言う。「すごく自然もあったし、豊かな感情を育ててもらえた。東京で暮らしていると、セコセコしている。学習塾だったり、将来のことを考えたり、といったことが子育ての中で優先されて、自分たちが育ってきた環境とは違う。」と言っている。子育てするための環境として、山形県はすごく良いということは、自信を持っていただきたいと思う。さらに子育てしやすいからここに越してきましたという気持ちになるぐらい環境を整えていくことが大事だと思っている。また、移住してきた当初、私も息子も地域の方の言葉が全然わからなかったが、周りの友達等に助けられて慣れてきたので、同じように、Ｉターン、Ｕターンしてきた方を助けるというのが大切だと思う。

２年前まで子育てサロンに関わらせていただいていた。自分が移住してきた時にもこういう場所があったら良かったなと感じたので、このような支援をしてほしい。

また、息子たちが山形に帰ってこなかった原因は、職の選択肢が無いということだった。帰りたくても、自分が目指したりしたい仕事がないから帰ってこれないということもある。職の選択を増やす施策というのも大事だと感じる。

最後に、私の放課後児童クラブで働いている女性で、11年前に県の雇用推進補助をきっかけに就職した方がいるが、最初は850円ぐらいの時給だったところ、今では家を構えて子ども1人を育てている。雇用を後押しするようなものも考えていただけるといいかなと思う。

【松田知明会長】

令和３年度の事業評価については、コロナの対応ということで非常に大変な中で、それぞれ、対面での事業展開のほか、SNS、ICTを使って、それぞれ事業を展開していただいた。その結果が、概ね42項目のうちの７割が目標を達成しているということであり、概ね評価できるとして評価させていただいた。

次に、令和４年度の政策について、皆様よりそれぞれ専門の立場からいろいろご意見をお聞きして、令和４年度の政策に反映できるものと、将来的に反映できるもの、それぞれ、判別されてくるのかなというふうに感じた。先ほど佐藤委員の方からもあったが、やはり数値目標が下回ってるものもあるので、それについての対応もあるかと思う。また、コロナもだんだん収束するような方向に行くかと思うが、コロナ後の対応ということで、これまでと同じような計画に乗るのか、少し修正していくのか、その辺りを鑑みながら、新たな政策の展開の仕方を、検討する必要があるように感じた。

先ほど高見委員の方からもあったが、私もそれぞれの項目、どれも、非常に大切ななこと

だと思う。ただ、どうしてもすぐ数値化してその成果があらわれるものと、少し時間がかかるものというのがある。このプランが５年ということだがこれに縛られることなく、数字がなかなか目標に達しないからということですべて見直すというのではなく、数値がなかなか伸びなくても、やはり何年後かに成果が上がるものもあるかと思うので、計画の策定の中でご検討いただければと思う。

【松田知明会長】

ただいま皆様からいろいろなご意見をいただいたところ。ご意見を反映しながら、事務局には一層取り組んでいただくということで、今回の協議会委員全体の評価としては、“概ね評価できる”としていかがか。

（異議なし）

それでは、協議会の意見として“概ね評価できる”と決定する。

以上